

もう一つの散歩「平成22年9月26日(日)」神宮球場(外野席) No.25

昨日から考えていた。今日は快晴だから神宮球場へ行こう。そして、外野席でゆっくり日光浴をして、時には空を見上げて秋を想い、熱中病にならないように水を頻繁に飲みながら、持参した双眼鏡で六大学野球の早明2回戦を観ようと決めて家を出た。午前9時20分。昨日の1回戦では早稲田が4対1で買っている。今日は勝ち点を取る日だ。今朝の交通機関は地下鉄だ。近くの南北線志茂駅までゆっくり歩いて10分。エレベータで地階に降りると改札口がある。溜池山王駅経由で外苑前までの切符を買う。230円。改札を通る時、若い駅員に「おはよう」と声を掛ける。驚いたような返事が返ってくる。挨拶する人がそれ程少ないのである。ここにもホームまでのエレベータがある。ホームに降り立つと「日吉」行の急行電車が入ってきた。日曜日だから空いている。バッグから昔読んだハロルド・ロビンズというアメリカ大衆小説作家の“Never Love a Stranger”を取り出して読み始める。小説も面白いが、これは自分の英語力が退化しないようにとの自衛努力である。6,7ページは読めたかな。約25分で溜池山王駅に着いた。そこからエスカレータと階段で地下鉄銀座線のホームに出る。ここから渋谷行の電車で三つ目の駅が「外苑前」である。ホームには看板が掲示されていて、それには「神宮球場口」と分かりやすい。沢山の人たちがその方向に向かう。ならば、この流れに身を任せればいい。皆と一緒に歩く。中高年の男性が多い。一様に黙って歩いている。階段で地上に出る。右折する。各種食べ物屋や弁当屋が並ぶ道路を球場方向に歩きだす。途中で自販機を見つけて水を買い求める。やがて歩を進めると右側にお馴染みの秩父宮ラグビー場がある。正面入り口の壁面(下の写真)に“Prince Chichibu Memorial Rugby Ground”と英語で記されている。



(秩父宮ラグビー場入口)

左前方に名門都立青山高等学校の校舎が見える。余計なことだが俳優の石田純一さんの母校だと聞く。そういうえば従兄弟にも、この高校卒業生がいた。連想の広がりには際限がない。そんなことを思い浮かべるのだから人の頭の中は複雑にして精密機械だ。そこを通り過ぎて前進すると神宮球場だ。正式には明治神宮野球場と呼ぶそうだ。今日の試合は2回戦ながら早稲田対明治、慶應対立教だから人気カードといえる。人出もいいようだ。球場入口に列が出来ている。「ここが列の最後尾」と書かれたプラカードを持ったスタッフの若者たちが忙しそうに動いている。大学野球も復活の兆しかと思わせるような活気が辺りに

漲っている。しかし、私ははじめから外野席を狙ってきたのだから、そんな列には見向きもしない。ひたすら、17番の外野席入り口の方向へ歩を速める。このような気持ちの高まりを長いこと忘れていた。かつて若い頃は野球場に着いたら早足でスタンドの座席を目指してまっしぐらに駆けあがったものだ。あの血が騒ぐような心の高揚感を久しぶりに体験した。「外野席でいいよね」という声が後ろに並んでいる若いカップルから聞こえてきた。弁当持参である。秋の陽光の下、何にも邪魔されずに自由気ままに食べたり、お喋りしたりするのに、こんなに好い日も、こんなに好い場所が他所にあるだろうか。



(神宮球場)



(外野スタンド)

かつて早稲田の学生であった頃、立教には長島茂雄がいた。サードだからスタンドからよく見えた。どんな球でもグローブで易々と捕えるので、スタンドから長島をヤジ攻めにした。そんな時、無闇に口に放り込んだのが中村屋のかりん糖であった。あっという間にかりん糖の袋が空になったほどである。そして、応援スタンドでがなり過ぎて、のどを枯らし、その後は新宿で安酒をあおって騒いだものである。色々な思い出が重なりあって頭に浮かんでくる。時が経ち、当時の仲間の何人かは既に鬼籍に入ってしまっている。



(早明戦。投手は福井)

外野席とはいっても入口には切符を買い求める人たちで長い列が出来ている。家族連れも目立つ。外野席券はひとり￥700。入場する。右へ行こうか。左へ行こうか。先ず、右

へ進む。バックネットから観てスコアボードの左側だ。グラウンドが見えた。芝生の縁が秋の陽光に光っている。外野から内野方向を見ると何もかも小さく見える。真っ正面に明治大学の元気な応援席がにぎやかだ。左側のスタンドに陣取る早稲田の応援席は右翼ライン側のネット越えに見えるだけ。試合開始は10時30分だが時計を見ると10時25分。明治と早稲田の応援団の対抗戦は始まっている。しかし、外野席はまだ空いているので自由に散歩が出来る感じだ。私はいったん座ったが、直ぐに動きたくなった。そこから右翼席方向に50メートル程移動すると、投手マウンドからバックネット席から両校応援団席などがよく見える。そこに座り込んで観戦しようときめた。水を飲み飲み。ニコンの双眼鏡を片手に、いつでもデジカメが取り出せるようにして観戦を続ける。投手がよいのか、打線が湿っているのか。単調な投手戦の様相。明治が一点先行する。早稲田の福井投手は三振は取るがコントロールが定まらず心もとない。7回から大石に交代させられるが、明治の左腕西嶋投手が素晴らしい好投を続ける。早稲田のヒットはたったの2本。これでは1対0で今日は明治の勝ちかと諦めかけた。ところが、どんでん返しが最終回にやって来た。やっぱり、野球は面白い。2対で早稲田の逆転サヨナラ勝ち。明治の投手はエースの野村だ。2死満塁の場面で広陵高校出身同士の戦いとなった。早稲田の土生が打ったセンター越えの白球が芝生の縁に弾むと球場一杯に大歓声がこだました。これは、まさにドラマだ。私は早稲田OBだから早稲田に勝たせたい。しかし、明治でも兼任講師で4年間務めたから両校に勝たせたいが勝負はそんなものではない。秋の晴天好日に相応しい素晴らしい試合だった。観客の数は13000人。両校の校歌を聴き惚れ、エールの交換を見届けて、神宮球場の外野席を後にして外苑散歩道に出る。歩いて行くと直ぐ左手に警視庁機動隊観閲式が行われることでも名が知れている有名な明治神宮外苑聖徳記念絵画館が見える。右手には、これまた有名なイチョウ並木が青山通りまで続く。



(真ん中が絵画館)

右方向に前進を続けると三叉路の交叉点に出る。その角に結婚式場で有名な明治記念館がある。今日は佳日のようだ。道理で昔の暦に「友引」と記されてある。明治記念館出入りする自動車の数も多い。ここに立っているだけで結婚式場の華やかな雰囲気が伝わってくるようだ。この明治記念館には終生忘れ得ない思い出がある。半世紀も前の事

であるが私たち夫婦が結婚式を挙げた場所も、ここなのである。昔の事だが、その時のあるましを今でも詳細に憶えている。立ち寄ってみたい気にもなったが左方向に折れてJR信濃町駅方向へ歩く。この歩道が何となく素敵だ。歌でも歌ってそぞろ歩きしたいような道だ。思わずメラに収める。



J R 信濃町駅の辺りは早明戦を観覧して帰途に就く人たちでごった返している。直ぐそこに慶應病院があるから見舞客もいるだろう。1992年、大好きな歌手の芹洋子さんが交通事故で重傷を負ったのはこの辺りだ。歩いていると、こんなことまで思い出す。ランチをとろうかと周辺をしばし歩き回るが、どの店も混んでいて、諦める。辺りの風景をカメラに収めた後、切符を買ってJR 信濃町駅のホームに降り立つ。そして、入線してきた中央総武線の電車に飛び乗る。秋葉原駅はここから四谷、市ヶ谷、飯田橋、水道橋、お茶の水の次の六つ目。あそこまで行けば何か食べられるであろうが、かなりの空腹感を覚える。秋葉原の駅構内で簡単なランチを取り、京浜東北線快速で赤羽まで。帰宅して歩行計を見ると7574という数字が見えた。

(石川英夫)



(信濃町歩道橋から慶應病院方向を望む)